編集印刷デザイン用語辞典

関 善造

編集印刷デザイン用語辞典

関 善造

書借
本外
样不

誠文堂新光社

〈著者紹介〉

関　善造（せき　ぜんぞう）

1922年　東京生まれ
早稲田大学商学部卒
印刷コンサルタント
日本印刷学会会員
著　書　「印刷ガイド」（1970年，誠文堂新光社），「デザイナーのためのオフセット印刷ガイド」（1974年，誠文堂新光社），「グラフィック・デザイン・テクニック」（1973年，共著，鳳山社）
現住所　160 東京都新宿区北新宿1-30-30-222

NDC 749

編集 印刷 デザイン用語辞典

発行日　昭和52年7月20日　第1版発行　検印省略

定　価　3,500円

著　者　関　善造

発行者　小川茂男

発行所　誠文堂新光社
101 東京都千代田区神田錦町1－5
TEL（03）292－1211　振替東京7-6294

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

本社発行12雑誌
商店界・プレーン・アイデア・子供の科学・天文ガイド
無線と実験・電子展望・初歩のラジオ・ガーデンライフ
囲碁・愛犬の友・農耕と園芸

印刷　大日本印刷
製本　文鳳社

Printed in Japan

© Zenzo Seki 1977

2058 ——— 3854

13107
758-61
11

はしがき

出版，編集，広告，パッケージ・デザインなどの専門的な仕事から，企業の事務用印刷物，社内報，学校新聞に至るまで，印刷物を発注する担当者にとって，印刷関係のいろいろな用語，ことに業者の使う術語や慣用語に悩まされた経験はだれにでもあると思う。また印刷・製版関係の営業を担当していると，出版やデザイン，あるいは広告の専門家に接するので，これまたその世界だけで通用する用語が多く戸惑うことが少なくない。ことにこうした業界に足を踏み入れたばかりの新人にとっては，1年，2年と仕事を熟知するまでは，しばしば首をかしげるような言葉にぶつかって当惑させられる。あえて新人といわなくても，10年選手のベテランでさえ，日進月歩の技術から出てくる新しい用語と，極めて広い領域にわたる関連語に疑問を持つことは一再でないはずである。

この用語辞典は，そうした人々の要望にこたえることを目的として編述されたものである。印刷物を発注する立場にあるすべての人と，印刷関係の営業を担当する人の手助けになろうとするのが目的の辞典であって，印刷技術者を対象とした専門家のものではない。取り上げた項目は，印刷・製版を中心として，用紙，製本にわたり，グラフィック・デザイン，パッケージ，レイアウト，タイポグラフィ，色名について，なるべく数多くの用語を採録した。また印刷媒体に関連のある広告関係の用語もできるだけ取り上げてある。それに加えて出版・編集に関する事項を広範囲に網羅したつもりである。用語は専門語に限らず，一般に通用しているものは俗語や，専門家の符蝶に近い言葉から商品名に至るまで見出し語としてあるので，業務上の疑点の解明に役立つはずである。なお解説は単なる用語の説明にとどまらず，用途，用法，注意事

項など実務的なことに言及している。その反面理論的・技術的なことはほとんど省き，原則として歴史や由来の説明もしていない。従って，より詳しい情報を必要とされる方は，専門書を参照していただきたい。解説文は平易を旨としたため，やや冗長に流れた嫌いもあるが，だれでも親しめるように心掛け，図版もできるだけ多く掲載し，理解の便を図ってある。用語辞典というよりはむしろ実務家の手引書として，「読む」書物としても活用していただけることを期待している。

デザイナー・編集者等，日常印刷と縁の深いクリエーターにとって，忙しいさなかに細かい用語などを検索するのは時間の浪費であるし，多彩な仕事をしていく上には不明の用語を放置するわけにもいかずといった場面に，本書が座右において簡便に情報を提供し，仕事上の無用のトラブルを軽減するお役に立てば著者としては望外の幸せであって，それによってさらにクリエイティブな仕事の成果が発揮されることこそ最も希望するところである。なお読者のための便覧として，巻末に用紙・活字などの寸法表，用紙所要数早見表，活字・写植の大きさ見本，著作権法抜粋，当用漢字表等を付録としてあるので利用願いたい。

本辞典の編述に当たっては，多くの先輩諸氏の著書・辞典等を参考にさせていただいたので，末尾に参考書名として掲載してある。また各方面の会社の資料より写真などを転載させていただいており，ご協力会社芳名を挙げさせていただき，あわせてここに厚く御礼申し上げる。出版に際しては，大日本印刷株式会社飯島淳行氏，誠文堂新光社ならびに同社坂本登氏，鎌田公雄氏に大変お世話になり，校正に当たっては松本久男氏を煩わしたので，深く感謝を表する。浅学にして記述に誤謬もあるかと思うが，お気付きの点はご教示，ご叱正を賜わることをお願いする次第である。

昭和52年4月

関　善造

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡　例

1．見出し語の配列順序は五十音順としてある。

2．外来語の表記は国語審議会報告を参考としている。

例・ヴァイオレット→**バイオレット**

3．外来語に長音符を用いた場合には，長音符はないものとした位置に配列してある。

例・**マージナル・ゾーン**は**マジック・インキ**の次に置く。

4．外来語は，原語がそのまま用いられているものに限り原語を付してある。

例・**アイデア**　(idea)

英語以外の外国語はイタリック体を用いてある。

例・**エスプリ**　(*esprit*)

ただし，固有名詞，書体名については，英米以外のものでもイタリック体を用いていない。

例・**ノイエ・ハース**　(Neue Haas)

オストワルト表色系　(Ostwald)

5．日本製の外来語，日本製の商品名，なまった外来語には語源等の原語は記していない。

例・**マシン・コート紙**　（日本製品名）

レザック　（商品名）

インテル　（なまった英語）

6．見出し語は，内容により下記の12項目に分類して略号を付けてある。ただし二つ以上の項目にわたる内容のものはいずれかの一つを選んである。

例・**加色混合**は，印刷・色・デザイン・写真に関連するが，色彩の項目としてある。

編集・校正・出版に関するもの	《編》
レイアウト・割付に関するもの	《レ》
デザイン・美術に関するもの	《デ》
デザイン・レイアウトの用具	《具》
色名および色彩に関するもの	《色》
印刷・製版に関するもの	《印》
書体・タイポグラフィに関するもの	《タ》
紙に関するもの	《紙》
製本に関するもの	《本》
写真技術・技法に関するもの	《写》
パッケージに関するもの	《包》
広告に関するもの	《広》

7．見出し語の内容がまったく異なった意味に用いられる場合は，①

②……の番号を付してある。

8. 見出し語が，他の見出し語にある言葉とまったく同じ意味である場合には，説明を簡略とするか，省略して参照見出し語を⇨で示してある。

例・**フロッキー印刷**　（⇨植毛印刷）

9. 他の見出し語を参照しないと理解が困難と思われる場合には，末尾に参照見出し語を示してある。

例・**表版**　（⇨版面掛け）

10. 見出し語の説明中，難解と思われる語で，この辞典に見出し語として別項目で説明してあるものには＊印を付してある。

11. 欧文書体は，活字，写真植字，トランスファ・レタリングによって我が国で使用できるものの中から見出し語に採録した。末尾にその書体を常備している社名を下記略号で付してある。

活字　〔大〕　大日本印刷株式会社
　　〔凸〕　凸版印刷株式会社
　　〔共〕　共同印刷株式会社
写植　〔研〕　株式会社写研
　　〔モ〕　株式会社モリサワ
トランスファ・レタリング
　　〔イ〕　インスタント・レタリング
　　〔チ〕　チャートパック・レタリング

12. 巻末に寸法表等の参考資料を付録としてあるものは，見出し語の説明文の末尾に註記してある。

あ

藍（あい） 《色》

濃い，やや暗い感じの青色をいう。本来，藍という草から採れた色素の色である。日本古来の色として，ゆかたなどの染物に広く使われている。英語のインジゴーと同じ。（ＪＩＳ規格表示　2.0PB　3.0/5.0）

間紙（あいがみ） 《本》

乾燥不十分な印刷面が，他の紙や，印刷面に接着することを防止するため使用する薄紙をいう。ことに原色版で刷った場合はインキの乾燥が遅く，美術書などでは対向ページが双方ともカラー印刷である場合に間紙を入れて製本する。間紙には*仙花紙などの薄い紙を用いる。オフセット印刷ではインキ層が薄く接着の心配がないから，間紙の必要がない。あいし，かんしとも読む。

アイ・キャッチャー（eye catcher） 《広》

広告において目に付くカットを入れて，強い印象を与えようとするものをいう。特殊な動物，例えばパンダとか，有名な漫画などが使われる。これを繰り返して用いると，パンダを見ただけでその商品を連想したり，その会社名が想起されるという効果がある。ことに動物のもつ親近感などが一層効果を高める。アイ・キャッチャーを長年用いて，会社のトレード・マークと同様に考えられるほど固定した場合，*トレード・キャラクターと呼んでいる。

愛蔵版（あいぞうばん） 《編》

私家版ともいう。自費で，趣味や記念のために制作する書物。

アイソタイプ法（isotype method） 《デ》

文字の代わりに，簡単にデザイン化された絵を用いる表現法をいう。トイレットの表示にシンボリックな男女の絵を使用するなどは最も一般化したものである。交通標識などにも普及して用いられ，万国共通の言葉と見られるので今後さらに工夫されるであろう。視覚的に万人に理解される世界語として，グラフィック・デザインの国際化時代における使命の一つとして大きな意味を持つが，国民性，民族的感覚には共通しないものが少なくないので，すぐれたものとするにはいろいろ問題

1970年万国博の表示

がある。万国博，オリンピックの表示，交通標識，統計図表，児童教育などに利用されている。International System of Typographic Picture Educationの略字から出ている。等形法ともいう。

アイデア（idea）《デ》
発想の意味。商業デザインの最も初期的段階を示している。デザインの目的達成に対するすべての企画・構想の出発点となる考えをいう。

愛読者カード（あいどくしゃ―）《編》
書籍の出版に当たって*投込みをする返信用のはがき。アンケートにより読者層の調査，その書籍の広告・宣伝効果の測定，今後の出版・編集計画の参考資料を得ることを目的としている。

アイドマの原則（AIDMAのげんそく）《広》
広告文案の企画・制作に当たって適用されるべき原則。広告の人を動かす力を心理的に分析して，どういう過程で訴求力が発生するかを考えた原則で，五つの段階があると見ている。すなわち，①まず注意をひく，②興味を感じさせる，③欲望がわく，④それが記憶される，⑤購買という行為となる。この5段階の英語の表現，Attention，Interest，Desire，Memory，Actionの頭文字を続けてAIDMAといわれている。

藍鼠色（あいねずみいろ）《色》
藍色がかったねずみ色。わずかに青みを帯びた灰色。（ＪＩＳ規格表示　7.5B　4.5/2.0）

藍版（あいはん）《印》
カラー印刷におけるシアン・インキで刷る版をいう。青版ともいう。シアン版に同じ。
（⇨シアン版）

アイボリー（ivory）
①《紙》黄ばみを持った象牙（アイボリー）色の板紙。表面の緊密な用紙で主としてカード，挨拶状などに用いる。紙の分類上，雑種紙と見る場合もある。原紙寸法は板紙サイズではなく582mm×758mmである。正しくはアイボリー・ペーパー。
②《色》ほとんど白に近い，わずかに赤みを帯びた黄色。象牙色をいう。（ＪＩＳ規格表示　2.5Y　8.0/1.5）

アイボリー・ブラック（ivory black）《色》
黒い色。本来は象牙を焼いた顔料をいうが，今は動物の骨を焼いて作った顔料を使う。色の名称として用いられる。

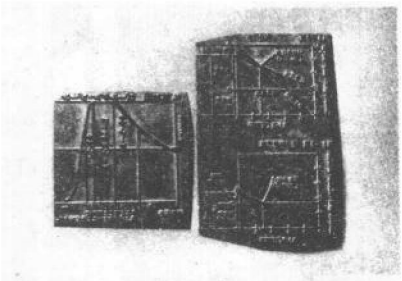
藍焼（あいやき）《印》
校正のための青写真をいう。青焼に同じ。
（⇨青焼）

アウト・フォーカス《写》
焦点のボケた写真。技法的に特殊効果を目的として焦点を外して撮影した写真をいう。

アウトライン（outline）《タ》
欧文活字（写植）書体で，輪郭だけの装飾体の文字をいう。主としてゴシック，アンチック体の文字の場合をいう。ローマン体の場合にはオープンと呼んでいる。

OUTLINE　12345
輪郭の文字　アウトライン
〔ナール・研〕

亜鉛凸版（あえんとっぱん）《印》
凸版印刷用の版材に亜鉛を用いたもの。主として線画凸版に用いる。金属の性質上，写真版として細かい網版を作るのには不適当である。略して亜凸という。（⇨線画凸版）



亜鉛版（あえんばん）《印》
金属平版の中で，亜鉛を版材にしたものをい

う。従来オフセット印刷の版としては最も広く用いられていたが，最近は，版材として特性の勝るアルミニウム版に変わりつつある。製版をする方法としては，直接亜鉛版の表面に原稿を描く*描き版，*転写版，写真製版法によりネガの焼付を行なう*卵白版，これを改良して，わずかに版面を腐蝕して画線を強化した*平凹版等各種の製版法がある。正しくは亜鉛平版と呼び，一般にジンク版と呼んでいる。

亜鉛平版（あえんへいはん） 《印》

亜鉛版に同じ。亜鉛を版材とした金属平版をいう。 （⇨亜鉛版）

青写真（あおしゃしん） 《写》

焼付によってネガ像を得る印画法。鉄塩類の感光剤を塗布した用紙と，線画を透明紙に描いた原稿を合わせて光に当てて焼き付けると感光した部分が青色になり，線画が白線となって現われる。簡便に複写ができるので設計図などに用いられたが，現在は*陽画感光紙が多く用いられている。オフセット，グラビアの校正に利用され，通常，青焼といっている。

青竹色（あおたけいろ） 《色》

青々とした竹の色からきた青緑色をいう。現実の竹の色は必ずしも青みがないが，鮮やかなやや薄い青緑色を指すことが多い。（ＪＩＳ規格表示 2.5BG 5.0/6.5）

青版（あおはん） 《印》

カラー印刷におけるシアン・インキで刷る版をいう。シアン版に同じ。藍版ともいう。 （⇨シアン版）

青焼（あおやき） 《印》

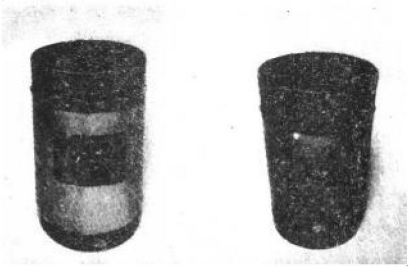
印刷物の校正として用いる青写真もしくは陽画感光紙をいう。オフセットやグラビア印刷においては，凸版と違い，校正用の版を作らなければ校正刷が出せないので，通常貼込みの終わったポジ・フィルムの複写を作って校正をしており，これを青焼と称する。

青焼校正（あおやきこうせい） 《印》

オフセットやグラビア印刷において，青写真もしくは陽画感光紙で校正することをいう。最終に貼込みの終わったポジ・フィルムから*青焼を出して校正する。写真の調子は十分にわからないが，文字やレイアウトの校正は可能である。カラー印刷では校正版を作って*色校正を行なうが，単色の場合には青焼校正で済ませている。

あおり 《写》

カメラのレンズとピント・グラス面の角度を変えることをいう。一般のカメラでは，レンズの光軸とピント・グラス面は直交しているが，その結果高層ビルなどを撮影すると，レンズの性質上，上部が極端に細くなった画像になる。*ビューカメラを使用するとあおりが可能で，商業写真でカタログなどの撮影にはあおりを効かした写真を用いている。



アカ 《広》

あらかじめ予定した新聞・雑誌の広告スペースに広告主が見付からなかったり，急に予定広告がキャンセルになった場合に，媒体や広告代理店が，やむを得ず既製の広告原稿などを埋めたもので，広告料を取ることのできない広告をいう。

アカウント・エグゼクティブ 《広》

（account executive）

広告制作に当たって，クライアントと広告代理店との間におけるマーケティングに関する立案・実施を担当する者をいう。クライアントの要求するすべてのマーケティング活動を広告代理店において実現するためには，全般

的に緊密な連絡を必要としている。単なる一部分の担当者では，個別的な接渉に終わり，クライアントの要求する全般的なマーケティングとの関連がつかみきれない。クライアントの意図を完全に広告代理店に浸透するためのシステムには，ぜひともアカウント・エグゼクティブを置く必要がある。

アカウント・スーパバイザー　《広》
(account supervisor)
大きな広告企画において，クライアントと広告代理店との間に*アカウント・エグゼクティブを置いた場合，さらにその全体を統轄する責任者をアカウント・スーパバイザーという。すべての広告代理店に対して，広告計画の立案，予算，作業進行，実施等に対する管理・監督の責任を持った代表者である。

銅色（あかがねいろ）　《色》
銅のような色。黄ばみを帯びた赤色でやや暗い感じの色をいう。

赤錆色（あかさびいろ）　《色》
わずかに黄色みを持った暗い鈍い赤色。鉄の錆びた色。*錆色よりやや赤がさえた色をいう。（ＪＩＳ規格表示　9.0R　3.5/8.5）

明石（あかし）　《タ》
和文写植書体。明（みん）朝を基にして*宋朝の感覚を加味した新しい設計の書体。可読性が高く本文書体としても使用できる。〔モ〕

デザインの変化にとんだ
特色ある写植文字

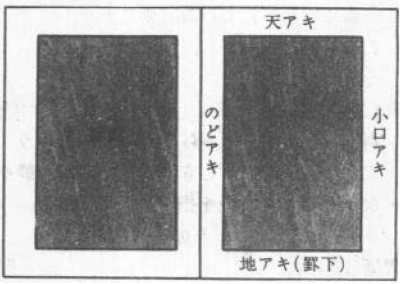
赤字（あかじ）　《編》
印刷物の校正刷に書き込んだ訂正文字や校正記号をいう。一般に赤鉛筆か，赤のサインペンで書き込むので赤字という。赤字はわかりやすく，正確な記号で書き込むことが望ましい。

赤字引合せ（あかじひきあわせ）　《編》
印刷物の校正において，第２回目以降の校正で前回に赤字で書き込まれた訂正個所の校正記号を見ながら，その校正個所が正しく訂正されたかどうかをチェックする校正をいう。再校以後の校正ではまず赤字引合せを行ないその後に，素（す）読みで読み直すのが通常の校正法である。

茜色（あかねいろ）　《色》
茜という我が国古来の染料からきた色で，やや黄ばみを帯びた赤色をいう。（ＪＩＳ規格表示　4.0R　3.5/10.5）

赤版（あかはん）　《印》
カラー印刷における３色版の一つ。マゼンタ・インキで刷る版の俗称。　（⇨マゼンタ版）

空き（あき）
①《レ》書物において版面の周囲の余白をいう。とじてある側をのどあき，その反対側を小口あき，上側を天開きまたは頭（あたま）下，下側を地開きまたは罫（け）下という。
②《タ》活字または写植文字の，字と字の間隔をいう。指定には「*全角アキ」のように用いる。



空き組（あきぐみ）　《レ》
活字（写植）の組版で，文字と文字の間を*ベタ組としないで間隔をあける組方をいう。活字であれば間に*スペースや*クワタを入れて組むので，その間隔を活字の大きさに対して何倍，または*２分（にぶん）というように指定する。写植の場合は*歯送りの量で指定する。活字組でいう*倍どり，*字割はあき組を意味している。

アクアチント（aquatint）　《印》
凹版印刷*蝕刻法の一方式。版材には銅板を

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

用いて，樹脂の粉末を版面に撒布し，加熱して溶融固着させる。これに彫刻針で原稿の図柄を彫り付け，酸で腐蝕して製版する。防蝕用のニスを利用して腐蝕を部分的に変化させて，版に調子を与えるなどのテクニックがあるが，極めて特殊な印刷法である。

アクアマリン（aquamarine）　《色》

宝石のアクアマリンのような色。すなわち海の水の色を意味する宝石の名が示すように，薄い青緑色を指す。

アクセント（accent）

①《デ》デザインやレイアウトにおいて，強調して全体の効果を高める部分をいう。言葉の中で調子を高めることをアクセントということから転じた用法。色彩の変化，文字の大きさ，書体，目立つイラストなどを用いて，全体が平凡な調子の低いものにならないように際立った強調部分を作る。

②《タ》欧文活字（写植）の中で，アクセント記号などの付いた文字をいう。ただし辞書ではアクセントの記号（′）を音節の後（もしくは前）に付けることがある。

á	アキュート	ă	ショート
à	グレーブ	ā	ロング
â	サーカンフレックス	ä	ダイアラシス
ñ	ティルド	ç	シーディラ

アクリル樹脂系絵具　《具》

（―― じゅしけいえのぐ）

アクリル樹脂に顔料を加えた絵具。アクリル樹脂は水溶性でありながら，ひとたび乾燥すると耐水性を生じ変化しにくい性質がある。その上光沢があり，乾燥が早く，弾力性，接着性等多くの特色を持った樹脂である。この樹脂をベースにした絵具は時間をおかずに塗重ねが可能で，混色する心配がないことから最近デザイン用絵具として好んで用いられている。

アクリラ，アクリル・カラーはその商品名であり，アニメックスは動画フィルム用のアクリル樹脂系絵具の一種である。

アコーディオン・フォールド　《本》

（accordion fold）

印刷物などの折方の一つ。山形にジグザグに折る，いわゆるアコーディオン折。フォルダーやリーフレットに用いられる。小さな判型で広く伸ばせるので地図帳などにも使う。法帳折，経本折ともいう。

アサ（ASA）　《フ》

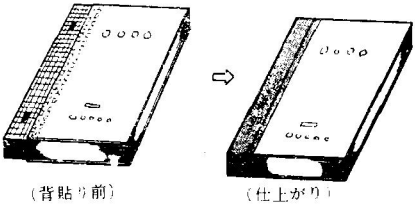
撮影用写真フィルムの感光度を表わす指数の一つ。数字が多いほど感光度は高く，一般のネガ・タイプ・カラー・フィルムやＳＳ級の白黒フィルムがＡＳＡ100に当たる。指数が２倍になると感光度も２倍になる。*ＤＩＮの感光度指数で表わすと，ＡＳＡ100がＤＩＮ21である。アメリカの American Standard Association が制定したので，その頭文字を取ったものである。

浅葱色（あさぎいろ）　《色》

鮮やかな薄青色で，幾分緑のかかった色をいう。（ＪＩＳ規格表示　2.5B　5.0/8.0）

足継表紙（あしつぎひょうし）　《本》

仮製本の一種。比較的厚い表紙を用いて*切



（背貼り前）　（仕上がり）

付け表紙としたもので，表紙をとじる部分だけ本の幅より狭く作り，その部分へ丈夫な布地を継ぎ足す。その布地の部分を中身と一緒にとじ上げてから，背の部分へ紙クロスなどを巻き付けて，表紙と同時に断裁して仕上げる。教科書の製本などに利用される製本法で足貼り表紙ともいわれる。

足貼り（あしばり）　《本》

製本法の一種で，足継表紙を用いた製本。

（⇨足継表紙）

網代綴（あじろとじ）　《本》

製本の中身のとじ方の一つ。*無線とじのように糸も針金も使わないとじ方。*折丁の背に機械で切れ目を入れて，接着剤をその切れ目に浸み込ませて中身全体を1冊に固着する方法。無線とじより丈夫で，糸とじに近い感じで*のどまで一杯に開き，とじしろがわずかしかない製本法。

小豆色（あずきいろ）　《色》

あずきの色という意味だが，相当に広い範囲の色を指し，あずきの実のような赤茶色をいう場合と，煮えたあずきのようにやや紫みのある鈍い赤を指す場合とがある。（ＪＩＳ規格表示　8.0R　4.5/4.5）

アステリスク（asterisk）　《タ》

記号活字（写植記号）の一種。参照符号の一つで，註のあることを示したり，省略の場合に用いる。雪印ともいう。

*　　***

アステリズム（asterism）　《タ》

記号活字（写植記号）の一種。参照符号の一つで，省略，疑問点などに用いる。星印とも3星標ともいう。

*　　**
**　　*

アセンダー（ascender）　《タ》

欧文活字の小文字のａやｅの上辺より上に伸びた部分をいう。ｂやｌがこれに当たり，書体によってアセンダーの長いものと短いものとがある。アセンダーの上部の限界線を*アセンダー・ラインと称している。

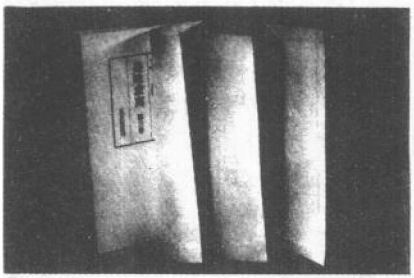
アセンダー・ライン（ascender line）　《タ》

欧文活字の字体の構成を示す，仮想の線の一つ。小文字の中で*アセンダーのある文字の上方に伸びた部分の限界線を指す。欧文活字（写植文字も含む）は上下の幅が書体により変化し，アセンダー・ラインなどの位置の相違が活字の特色をなしている。　（⇨欧文活字）

遊び紙（あそびがみ）　《本》

高級な本製本において，*見返しと，*扉との間に挿入されている紙をいう。一般に薄い模様のある和紙や美しいファンシー・ペーパーなどが好んで用いられている。*打抜きをしたり，セロファンを使うなどデザインに特殊な工夫をしたものもある。

見返しの表紙裏に貼り合わされていない片面を「見返しの遊び」と称する。



アタッチ・ペーパー　《具》

デザイン用具の一種。パネル貼りの紙に*平塗りをする場合，限界線の個所にアタッチ・ペーパーを貼り付け，上から塗りつぶした後，これをはがす。この方法によると限界線を美しくかつ容易に塗り分けられる。美濃紙のような丈夫な薄い紙の片面に接着剤を塗布し，はがしやすいようにできている。

頭（あたま）　《レ》

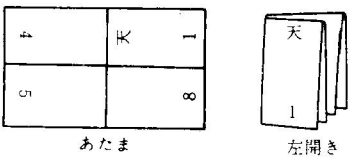
①　印刷物のレイアウトで，各ページ共通の紙面の上部をいう。新聞などでは，あたまはあらかじめ組んであって，年月日，号数だけ入れればよいようになっている。

② 書物の上部をいう。

頭合せ（あたまあわせ）　《印》

ページ物の版を4～8面組み付ける*版面掛けにおいて，版面の天の部分が向かい合ったものをいう。左開きの書物の掛け方。

（⇨版面掛け）



あたま　　左開き

頭下（あたました）　《レ》

書物のページの上部余白のことをいう。天あきとも呼ぶ。　（⇨開き）

頭出し（あたまだし）　《印》

大量の印刷物を発注した際，分割して納入される場合に最初の納入をいう俗語。例えば20万部のカタログを急いで発注した際，とりあえず2万部ほしいので「頭出し」は何月何日になるかというように用いる。

当たり線（あたりせん）　《レ》

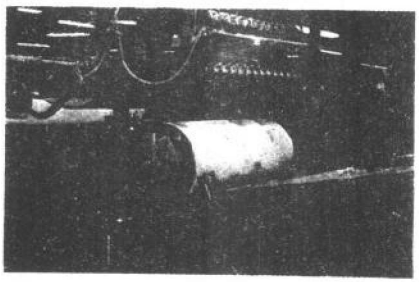
オフセット印刷用の*台紙を引いた場合に，写真版の入る位置や，*平網の伏せ込み，*ベタ刷などの境界を示す線をいう。挿入した写真に当たり線を輪郭として枠取りしたい場合には，その指定をする。当たり線は一般にネガの貼込みの見当に用い，印刷するときは現われない。

厚紙（あつがみ）　《紙》

一般の紙と*板紙との中間に当たる厚手の紙の総称で，特に厳密な定義はないが，四六判150～180kg位の厚手の紙で板紙に属さない厚さ0.15～0.23㎜位のものをいう。厚手の*模造紙，*ケント紙などがこれに当たり，*アイボリーや*ポスト・カードなどの板紙を含めていうこともある。

圧胴（あつどう）　《印》

印刷機械における印刷用紙を押し付ける円筒を圧胴という。圧胴がパッキングの作用をして，版面と圧胴に押し付けられた用紙との接する切線で印刷が行なわれ，この部分の圧力が印刷の良否に大きく影響する。圧胴に押し付けられる紙は*くわえ爪の開閉によって，はさみ込まれたり，送り出されたりする機構となっている。



アット記号（－－きごう）　《タ》

記号活字（写植記号）の一種。商用記号の一つで「……に付き」を表わす記号。アット・マークともいう。

@

厚表紙（あつびょうし）　《本》

板紙を芯として外側を装本材料でくるんだ表紙もしくはそれを用いた製本法をいう。厚表紙は中身と別個に仕上げ，中身をとじ上げて断裁してから結合する。中身より*チリの部分が一回り大きいのが特色である。

*仮製本でも厚紙を用いる場合には厚表紙ということもあるが，混同を避けて本製本の芯のある表紙を指すものと見るべきである。

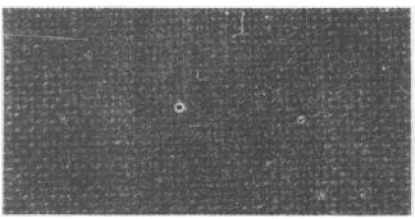
宛名印刷機（あてないんさつき）　《印》

大量，継続的に同一の郵便用宛名を印刷する

ための印刷機。一般には謄写版方式のものが用いられ，*ステンシルを小型の枠に張って，1件ずつの宛名を書き込み，この宛名カードが自動的に送り出されて，はがき・封書・帯封等に印刷できる装置である。出版関係，ダイレクト・メールの発送に広く利用されている。凸版方式の亜鉛版による宛名印刷機もある。

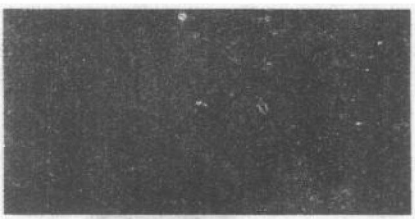
アート・カンバス (art canvas)　《本》

製本用布クロスの一つ。厚織の生地で作った丈夫な布クロスで，染料で仕上げて糊を塗布したものと，塗料を塗り平滑に仕上げて糸目の出たものとがある。主として大型の美術書などの装本に用いる。



アート・カンブリック (art cambrick)　《本》

製本用の布クロスの一種。カンブリックは本来フランス製の薄地の綿織物であるが，これを模した装本材料をいう。糸目の細かい落ち着いたクロスで，薄葉紙を裏打ちして染色加工して仕上げたもの。学術書などの装本に適している。



アート紙 (――し)　《紙》

印刷用紙の一種で塗被紙の代表的なもの。白土と糊料とを，上質紙または中質紙の抄造後に表面に塗布して，*スーパーカレンダーで光沢を付けた紙をいう。表面が極めて平滑で白色度も高い。従ってカラー印刷や網版写真の印刷に適している。書籍の口絵，画集，写真集，カタログなどの用紙として用いられる。上質紙に加工したものを特アート，中質紙に加工したものを並アートという。染料で着色したカラー・アート，表面の光沢を抑えたつや消しアートなどの種類があり，片面だけを加工したものを片アートという。板紙でアート紙同様の加工をした紙をアート・ボストと称している。

アート・スーパバイザー(art supervisor)　《広》

広告制作に当たって，アート・ディレクターの上に立つアート関係の責任者をいう。広告代理業の制作部門にクリエイティブ・グループ・システムという近代的組織を採用した場合に，企業別に統一的な制作活動を行なう企画，管理者としての責任を果たす。

亜凸 (あとつ)　《印》

亜鉛凸版の略称。線画凸版のことを指す場合が多い。　(⇨亜鉛凸版)

後付 (あとづけ)　《編》

書籍の末尾に本文の後へ付く付き物をいう。あとがき，跋(ばつ)，引用文，索引，付録，参考文献，奥付（おくづけ），広告などが後付である。本文とは組方を変える場合が多くページも通しページを付けない場合もある。ことに索引などを横組にすると，その部分だけが左開きになるからページ数が逆になり，逆丁という。

アート・ディレクター (art director)　《広》

広告の制作に当たって，コピー・ライター，グラフィック・デザイナー，フォトグラファー等を統轄するアート部門の責任者をいう。広告代理店としては，一つの企業に関しての総合的な責任は*アート・スーパバイザーが取るが，クライアント別，または*キャンペーン別の作業責任者はアート・ディレクターである。

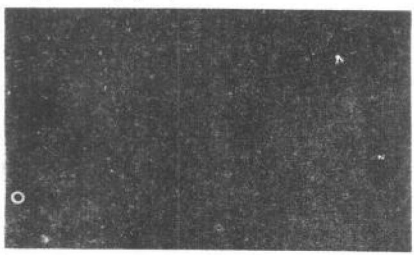
クライアントが売り込もうとする商品について，クライアントの意志と，商品の特性と，

マーケティング・リサーチのデータを基調に広告に関じての*コンセプトをまとめ，計画を立案し，各クリエーターを一つの方向に協力させながら，クリエイティブな成果を生み出すかなめとなる重要な役割である。略してＡＤという。

アドバタイザー (advertiser) 《広》
広告主の総称。クライアントという場合には媒体や広告代理店から見て，取引のある広告主を称している。アドバタイザーはもっと広い意味を持ち，すべて広告をする主体を総合していう。なお電波媒体の広告主は通常スポンサーといい，まだ契約に至らない見込みの広告主はプロスペクトという。

アドバトリアル (advertorial) 《広》
広告(アドバタイジング)と編集(エディトリアル)の合成語。雑誌などに，ある商品に関する論文やルポを載せ，間接的にその商品をＰＲする手段をいう。
特定の商品名，会社名を載せないのが原則であるが，銀行協会，鉄鋼連盟などの団体を，*クライアントとする場合もある。業界全体の販売促進が間接に自社に有利になり，商品のイメージ・アップを図ることを目的としている。特に圧倒的市場シェアを専有している会社の場合には，あえて自社の商品名や会社名をうたわなくても十分効果が挙げられる。

アート・ベラム (art vellum) 《本》
製本用布クロスの一種。糸目の細かい布地に塗料を塗り平滑に仕上げたもので，糸目が白く現われていて，クロスとしては最も広く用いられているもの。



アート・ポスト 《紙》
*塗被をした板紙の一種。四六判100kg以上の厚さで，片面をアート紙同様の塗被加工をした紙をいう。カタログの表紙，*車額広告，絵はがき，メニューなどに用いられている。主として絵はがき用に使用されたのでこの名称がある。紙の分類上アート紙の一種とする場合もある。

アド・メディア (ad. media) 《広》
広告媒体の意味。印刷媒体，電波媒体，*ＰＯＰ等すべて広告に利用される媒体をいう。
(⇨広告媒体)

アート・ワーク (art work) 《広》
広告原稿，ポスター，パッケージ，*ＰＯＰ広告等の制作に当たって，主としてデザイナーの担当する造形的創造を必要とする作業またはその作品をいう。グラフィック・デザイン，イラストレーション，レイアウト，*タイポグラフィなどを総合して称する。

穴しろ 《本》
とじ込み用の*目打ち（穴開け）をした印刷物やノート用紙などの穴の部分の余白をいう。

アニメーション (animation) 《デ》
動画と訳されている。一駒ずつ人物，動物，その他の動きを分割して描き，背景などの絵と合成して撮影した映画。主としてカラーであるが，広告映画やテレビの*ＣＦとして強い訴求力を持たせることが可能で，広く利用されている。略称でアニメと呼ばれる。

アニメックス (Animex) 《具》
アクリル樹脂系の絵具の一種で，アニメーション用に製造された商品名。

（⇨アクリル樹脂絵具）

アニリン・インキ（anilin ink）《印》

*フレキソ印刷に用いるインキ。アルコールに溶ける樹脂類を*ベヒクルにしたインキで速乾性があり，透明な性質を持っている。着色にアニリン染料を用いているのでこの名称があり，プラスチックや金属箔への印刷もできる。不透明インキとして用いる場合にはチタン・ホワイトを加えている。*フレキソ・インキともいう。

アニリン印刷（－－いんさつ）《印》

*アニリン・インキを使用した印刷でフレキソグラフ印刷，通称*フレキソ印刷と呼ばれる特殊印刷。（⇨フレキソ印刷）

アバン・ギャルド（*avant-garde*）

①《デ》芸術の世界における前衛派を意味している。前衛とは本来軍隊の先頭を守る守備兵であるが，既成の概念，技法を否定して，まったく革新的な創作を試みる芸術上の流派をアバン・ギャルドと呼んでいる。*シュールレアリズム，*アブストラクトなどを中心に，未来派，*キュビズム，*ダダイズム等を含めて，第一次世界戦争後の革新的美術全般を称している。

ことに抽象主義とシュールレアリズムは工芸や商業美術に大きな影響を与え，モダン・デザインに寄与している。文学，演劇にもこの傾向が認められ，アバン・ギャルドといわれている。

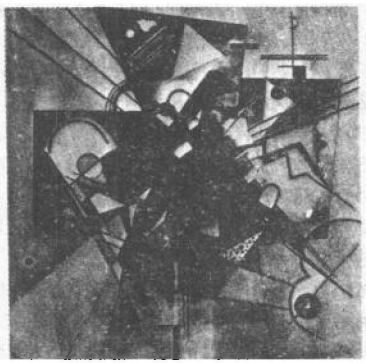
②《タ》欧文の装飾書体の一種。AやWの傾斜に2種類の字体があり，TとHなどの合字がある極めて特異な書体。〔イ〕

AAABCDVVV ER NT RUT
abccdeefghijkl vvv yyz
1234567890

アブストラクト・アート（abstract art）《デ》

抽象主義美術をいう。アバン・ギャルド芸術として，第一次世界戦争前後から急速に広まった流派で，*シュールレアリズムと共に革新的な美術の領域を開いて，現代美術に大きな地歩を確立し，グラフィック・デザインにも少なからず影響を与えている。

カンディンスキー，モンドリアンなどが初期の代表的作家である。具象を抽象化したものと，まったく具象に関係のない非具象と二つの傾向があり，*構成主義は後者に属し，現代美術界の流れの中でこれを無視することはできない。



カンディンスキー

油絵具（あぶらえのぐ）《具》

絵具としては最も古く，かつポピュラーな材料であるが，グラフィック・デザインにはあまり用いられない。ウォールナット油に顔料を混ぜて作られる。

この絵具の特色は塗り重ねができることと，パレットの上で混色して自由に色を創造できることである。乾燥しても重厚な光沢が失われず，いわゆる油彩画となる。古くなると乾燥して亀裂を生じ，絵画の退色により，絵が変色する。

アプローチ（approach）

①《デ》デザインで問題に達する予備手段をアプローチという。1個のテーマを掘り下げるために，幾つかの関連問題から接近する場合をいう。

②《広》広告の手段として，購買意欲をそそ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com